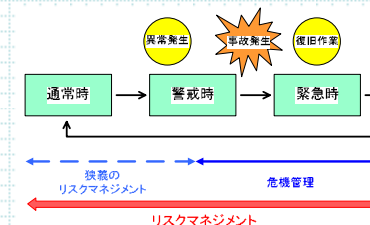


国際交通基盤の統合的リスクマネジメントに関する研究

(平成18～21年度 18年度予算額:8百万円)

目的

想定外の自然現象や人為的な事故・犯罪等が港湾・空港といった国際交通基盤の運営、安全確保上の重大な影響を与えている。このため、ハード・ソフト両面から費用対効果の高いリスクマネジメント手法を提案するとともに、危機発生時の国レベルでの国際交通ネットワーク確保の方策を提案する。



研究の背景

- ・地球規模で物流・人流に係る国際交通ネットワーク網の高度化が進展している中で、国際交通基盤に関するリスクの想定と影響度評価が急務。
- ・国際交通に係る安定性の確保と様々な想定リスクに対する経済社会への影響最小化方策の確立が急務。

研究内容

ハード施策

リスクモニタリング手法の開発、既存施設の増強及び代替性の確保。(防災・減災対策)

ソフト施策

災害時等のリアルタイム情報の共有、情報提供システムの構築、災害時のネットワーク途絶の影響度及び代替機能の評価

- 物流・人流の経済社会への影響最小化
- 既存ストックの効用最大化

平成18年度実施内容

- 1) 国際交通基盤(港湾・空港)に関するリスクの種類と特性の検討
- 2) 各リスクによる国際交通基盤への影響度評価
 - ・人命・財産への影響度
 - ・国際物流機能途絶による経済損失の評価等

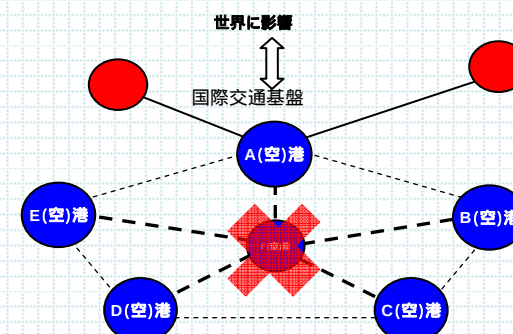
最終成果とその活用

ハード・ソフト一体となったリスクマネジメント手法の提案

- 危機管理マニュアルの策定によるリスクと影響度に関する関係者間の意識の共有など
- 国レベルでの災害時に必要な物流・人流ネットワークの早期回復及び影響の最小化

→ リスク最小化(国際交通に関する安全性・安定性の確保, 経済損失の最小化)

ネットワーク中枢がダメージを受けた場合のイメージ



グローバルサプライチェーン(供給連鎖)のイメージ(パソコンの例)

